

公演題目：ペルシャ民族と核問題

講師：小塚先生 中日新聞論説委員

受講生感想文 法学部1年

中東の国々がなぜ核というものを持ち始めたのかがわかったが、それと同時に、核を持ってアメリカと交渉しても世界の平和には繋がらないと感じた。

世界が平和になるためには、核に頼って国の立場を維持するのではなく、宗教上の問題が根本にあるのなら、互いにお互いの宗教への理解を示さなければならないと思う。

アメリカも中東の核保有問題に対しては、強行的な路線ばかりをとらずに、もう少し路線を緩和した方がいいと思う。

イランが核開発をしている理由としてイスラムを敵視しているアメリカへの警戒だけではなくペルシャ帝国の子孫であるという誇りが関係しているのではないかと考えてとてもおもしろかった。

実際アメリカなどの少数の国のみを核保有国としてみとめる NPT は核保有について賛成であっても反対であっても納得できないと考える人は多いと思う。

NPT で核兵器を保有できる国、保有できない国と決められているのがおかしいのではないかと。アメリカは NPT で核保有を認められていないインドと原子力協定を結ぶなど、NPT の体制が揺らいでいる。

核というものを持つとする理由は様々だろう。武器として核を持たないにしても、「核保有国」と認められてしまえば、その核は政治的に大きな武器になる。

もう NPT などやめて、もう一度世界各国が集まりゼロの状態から核について話し合う必要があるのではないかと考える。

今回の講演会を聞いて、僕の世界を見る見方が変わりました。今回の講演の演題でもある「ペルシャ民族の誇りと核問題」というものは、今まで僕の世界の中には何の関わりもないものでした。しかし今回の話を聞いてペルシャ民族の生き方や日本人との共通点などがよくわかりました。核問題という部分では僕たちは毎日のように報道を受けて、多少は知っていますが、やはり専門家の話は違うなと思いました。今回の講演でとても勉強になりました。またこのような機会があればぜひ参加したいです。

現在、日本の一部の国会議員の中で、核保有できるように憲法を改正するという意見が出ている。この議員が言うには、核兵器に対抗できるのは核兵器だけだと言っている。しかし、世界で唯一の核被爆国である日本がそのようなことを言っていてよいのか疑問が残る。核兵器は抑止力として保有しているが、保有している以上使わないとも限らない。どこか一つの国が核を使ったら、核戦争になることは目に見えている。そうなったら世界は破滅的な被害を被ることになる。核保有国を0にする事が一番の世界平和になると私は思います。

今回、講演を聞いて思ったのは、今までは表面の事しか見ていなかったが、裏側の問題を見ると一筋縄にいかない難しい問題が数多くあることがわかった。

中東の国が核を持つようになったことについては、もっともな行為であるような気がする。しかし、「我が身を守るための核」などと核保有については説明してはいるが、本当に我が身を守れているだろうか？実際に、中東の各地で紛争が絶えない。他民族、他宗教の間では現在は守られているかもしれない。しかし同じ民族の間では紛争が起きているという状態だ。

日本の原爆の悲劇を受け、NPT など世界的な約束がかわされたにもかかわらず、インド、パキスタン、イスラエルは加盟していないといわれる。アメリカのイラク侵攻などによって中東情勢が不安定な今、いつテロなどによって戦争が起こるかわからない今、核を保有するということは世界を破滅に導くものだと思う。

ペルシャは黄金で豊かな良い国とゆうイメージがあるのに、イラクは黒くて怖いイメージしかない。これはあくまで私のイメージだが、名前が変化しただけなのにここまで逆のイメージを抱かせるのはなぜでしょうか？それは 9.11 テロや核保有、内戦などが原因だと思います。私はアメリカが悪いとか、イランが悪いとかではなく、各国の「平和」への価値観が違うのが、今の状況を生み出したのだと思います。どんな国だって平和を望まない国はありません。ただ、その平和に向かってした事が、他国は良く思わなくて、摩擦が起こるのだと思います。自国の意見だけを主張し、通らなかつたら暴力とゆうのは

子供と一緒にです。平和への概念をそろえなければ、これからもっと怖い世界になると思います。また、先進国は発展途上国の発展のため、純粋に援助しなければならないのでしょうか？

今回の核問題についての講義を聞いて、核保有の意味を改めて知りました。最近では、北朝鮮が核実験を行って核が話題になっていたけれど、あまり核について深く考えたことはありませんでした。しかし核についてのことを聞いて、核問題のことを考えさせられました。現在、世界的には核不拡散体制があるが、大変矛盾していて、おかしい体制だと思いました。現実的には無理ですが、全ての国が核兵器の破棄をしてほしいです。

難しい話だったので完全には解からなかったが、核を世界から無くすべきだと思った。
今日はイラン人の気持ちになって話を聞いた。

歴史などを考えると核兵器が作られ、核を持つことによって平和や侵略を防げるのかもしれないが、戦争が始まった時に、人類や地球の破滅をみちびいてしまうかもしれない。民族によっては、他民族に負けないという気持ちがあるのかもしれないが、何よりも平和や人命が大切である。

この講義で、世界の状況を知り、核が世界平和を侵そうとしている事を知り、日本は、核の被爆国として核の広がりを止めるのに全力を注がなければならないと感じた。

北朝鮮が核実験を行なったこと。それは味方となる国がない北朝鮮が国を守る、また、国力を維持する為にやったことだと思う。日本人の視点から考えれば、他国と仲良くして国を安定させていこうとするが、北朝鮮という国そのものが我々とはまったく異なる思想で動いている為に、今日のことになったと思う。北朝鮮は今回のことで、また一歩踏み出してしまったから、これから先、軍事・政治の両面で更に過激になっていくかもしれない。

今回の小塚先生の講演を聞いて僕の核に対する脅威がよりいっそう強くなった気がします。ウランの濃縮技術を軍事利用することは絶対に許すことはできません。世界で唯一の被爆国である日本がもっと世界に訴えかけるべきであると思います。そしていつかは世界から核武装国がなくなることを望みます。

今まで僕たち一般人はさほど核のことを気にしていなかったであろうが、政府間だけの問題ではなく身近な国際問題としてもっと気にかけるべきであると思います。

今この瞬間に核が発射されれば、また国際問題になると思います。また、キューバ危機のようなことにならぬように政府がしっかり対応していてもらいたいです。

確かに原子力というのは効率よく発電ができる代物ではあるのだが、重大なリスクがあることを忘れてはいけません。2度とチェルノブイリ事故と同じことを繰り返してはいけません。全世界の人民が平民で幸福な生活ができることを深く願います。

北朝鮮の核実験および核保有に関して、我々日本国民は世界唯一の被爆国として、その当時の悲劇と現在にまで残る後遺症による現状を全世界に訴えるべきである。平和利用の名目のもとに核保有を行う国があるが、核の脅威を考えれば自国の安全を守るためであるとしても、核保有には多くの危険が供うのではないのか。

原子力発電にしても、エネルギーを供給する上での良い方法であるが、事故による放射能洩れがあるのも事実である。

イランは世界ではじめての大国であり、そのことをイランの人たちは誇りに思っているということは、素晴らしいなと思ったし、アメリカとの対立のようなことは、イラン革命の頃から始まっていて、つい最近からであることに驚きを覚えました。

核兵器について、NPT（核兵器不拡散条約）において、5カ国のみが核兵器の所持を限定で許されているというのは、微妙におかしいことだなと思ったし、核兵器は広島や長崎のような悲劇を生むので、完全なる撲滅が必要なのではないかと思います。

アメリカはイランやイラクなどから批判されることが多いけど、他国の意見をあまり取り入れないアメリカの考え方は、見直すべきことだと思うし、反米意識などをなくすためには、そうすることが大切で、それより、世界中がもっと平和になっていくには、必要なことだと思いました。

核攻撃をされないために、色々な国が核を作ったり、保持したりしていることがわかりました。単に戦争の時の攻撃の手段として保持していると思っていたが、自国を守るための防御策として核が存

在していた事に驚きました。

タイトルの「ペルシャ民族の誇り」についてはよくわかりませんでした。昔から対立が激しく、複雑な関係であることがわかりました。

今、北朝鮮が核実験を行っていると発表し、問題になっています。北朝鮮を批判しているアメリカも核を保有している事が、私は問題なのではないかと思えます。自分達の国を守るためとはいえ、使わないといっても、核を持っているだけで他の国にとっては脅威に思えます。その脅威に勝つには、自分達の国も核を持とう。という考えに至ってしまうと思えます。その繰り返しが、もしも起こってしまったら世界はとても危なくなってしまうでしょう。NPT で5カ国による核の保有を認めるのではなく、世界中の国々の核の保有を禁止するべきだと思います。日本にも公式ではないけれど、核保有国だということを国民が知って、まず自分の国からなくしていった方がいいのではないのでしょうか。